

陳 情 文 書 表

○都市・環境委員会

受理 番号	受 理 年月日	件 名	要 旨	住 所 ・ 氏 名
29	2. 11. 27	桃太郎線LRT化に伴う足守駅の再考を求めることについて	<p>岡山市は、庄内学区全域対象の意見交換会（平成31年2月23日）で、現足守駅（福崎）を国道429号線沿いの門前地区へ移設する案を提示されました。</p> <p>ところが、突然、令和2年7月6日に行き違い施設の設置が必要との理由で、設置を見送ると説明がありましたが、下記の客観的な根拠が説明されていないため、再考を求めます。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運行本数を増やさなければならないためのデータが示されていない。 2 時間短縮のためと言うが、何分縮まるのか説明がない。 3 現足守駅改修案の必要性のみの説明で、移設案のメリット（乗降客増等）が考慮されていない。そのため、地域振興にとって最大限の効果をもたらす案になっていない。 4 コスト面で移設は困難と言うが、将来性を考えた試算はされていない。 5 現足守駅改修案には、次のデメリットがある。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 駅の間口、アクセス道路の狭さ。 (2) 間口、ロータリーを広げる場合、土地上の諸問題。 (3) 行き違い施設用地の諸問題等及びコスト。 (4) 橋梁架設（歩行者、二輪車）設置に伴う洪水等の防災問題。 (5) パーク＆ライド駐車場（3メートル以上）の盛土構造物に伴う近隣的环境悪化及びコスト。 	岡山市北区門前406-11 足守駅の設置場所を考える会 代表 奥原弘己ほか14名

○都市・環境委員会における継続審査中の陳情

受理 番号	受 理 年月日	件 名	要 旨	住 所 ・ 氏 名
23	2. 9. 1	世界の潮流と国の政策に呼応する「日本版M a a Sの推進」の取組を求めることについて	<p>平成30年、岡山県並びに岡山市は「ライドシェアの導入に反対する意見書」を国に提出するなど時勢に逆行している。内向きを改める政策転換は必要不可欠です。</p> <p>公共交通機関の機能不全等を一因に、人口移動報告による岡山県及び岡山市の転出超過は深刻です。適正な運賃の実現及びパーク&BRTライドの拡充を可能にする「都市版M a a S」「地方版M a a S」「観光型M a a S」の整備は必要不可欠です。</p> <p>令和2年6月24日、岡山市議会陳情第20号は議員全員の反対により不採択に陥るなど、岡山市における日本版M a a Sの重要性の認識は薄弱で、新しい生活様式への移行において、議会の安穩さは極めて重篤です。従って、岡山市による日本版M a a Sの推進の取組は必要不可欠です。</p> <p>以上の理由により、下記事項を陳情します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 内閣官房日本経済再生総合事務局運営「成長戦略ポータルサイト」のモビリティページに記述されている「新たな移動サービスを通じた社会的課題の解決のため、必要な制度改革、データ連携の実現、自動運転も含めた様々なモビリティの実現等を推進」に呼応する、日本版M a a Sの推進への取組を願います。</p> <p>2 令和2年7月31日、国土交通省の報道発表資料「日本版M a a Sの取組を加速！～新たなM a a Sの構築を牽引するモデルプロジェクト38事業を選定～」に記された国の支援策に岡山市は多くを学び、M a a Sに関連する専門部局（責任の主体）新設等の努力を惜しむことなく、日本版M a a Sの推進への取組を願います。</p> <p>3 国のモビリティ政策である日本版M a a Sの推進への速やかな取組を切望します。</p>	岡山市北区野田屋町 1-11-20 グレースタワー II 1703 菅野敦也